

# 日経STOCKリーグ

玉山グループ

玉山ゼミでは、日本経済新聞社と野村証券が主催する「日経STOCKリーグ」に参加した。これは自分たちが決めたテーマにそった株式投資のシュミレーションをおこない、それについてのレポートを提出するものである。全国から1600ものチームが参加する大イベントである。そのために東京の金融市場の現場を訪れ、実際の空気を味わい投資についてのアドバイスもいただくことができた。以下、東京での訪問についての概略とSTOCKリーグへのレポートを抜粋する。

## 「フィールド実践訪問先」

### 一日目

まずは、現実の経済を知るため、JAL 整備工場を訪問し空の安全がどのように保たれているのかを見学した。

### 二日目

日本銀行を訪問した。お金の仕組み、金融の仕組みについて学んだ。



次にフランクリン・テンプルトン・インベスメントを訪問した。

玉山ゼミ二組のイスラム圏への投資につきコメントをいただき、イスラム圏で活躍してい

る企業とは、結果的には広くなんでもやっている大企業を選択することになってしまうのではとの指摘。

### 三日目は東証を見学

デジタル化された取引所を見学し、静かな中で株価ボードの数字だけ変わっていく不思議な体験。見学後に取引所内で株式取引仮想ゲームを全員で挑戦し、初めてエキサイトした。結果、玉山先生がダントツの成果をあげた。



セブン・アンド・アイ広報センターに訪問。

シニアフローの松本みのるさんより、セブン・イレブンの経営について解説をいただいた。セブン・イレブン・ジャパンの強みはドミナント方式と高い内製率にある。

### 四日目

ラッセル・インベストメントに訪問。

企業年金に対して運用に関する会社で最近の年金の運用実態について伺う。

# 生活を支える

## IT～企業と私たちのためのシステムサービス～

### <テーマ設定背景>

今回、私たちは身の回りにあるIT企業にスポットを当てた。

情報・通信を取り巻くニュースが企業の株価もしくは経営にどれほど影響があるのか疑問に思った。近年情報が身近にある時代でITが私たちにどのような影響があるか調べたいと思ったのが設定理由だ。

### <ポートフォリオの作製行程について>

- ・①Yahoo!ファイナンスを参考に情報・通信業(101社)を選択。
- ・②その中からROEの高い企業を10社選別。
- ・③さらにPBRとPERも利用し、順位を付け、各指標で優秀な数値を出した順から点数をつけ、ランク付け。

そのランクをもとに投資割合を決定し、ポートフォリオを作成した。

証券コード	銘柄名	EPS	BPS	ROE	ランク(点数)			合計点	投資金額(円)
					ROE	PER	PBR		
9437	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	11,187.34	126,458.15	8.85%	93(8)	1(10)	27	800,000	
4307	野村総合研究所	168.40	1,343.44	12.53%	71(10)	3(8)	25	800,000	
4326	インテージ	131.85	1,444.74	9.13%	88(5)	2(9)	22	600,000	
2317	システナ	3,062.90	47,254.10	6.48%	109(2)	4(7)	19	600,000	
4340	シンプレクス・ホールディングス	1,906.47	14,593.27	13.06%	64(7)	5(6)	19	400,000	
3730	マクロミル	52.66	343.92	15.31%	58(3)	6(5)	13	400,000	
9984	ソフトバンク	285.78	910.8	31.38%	12(9)	8(3)	13	500,000	
9449	GMOインターネット	37.77	163.72	23.07%	25(6)	7(4)	12	500,000	
4689	ヤフー	1,733.81	8,580.82	20.21%	37(4)	9(2)	9	200,000	
3769	GMOベイスンゲートウェイ	56.02	288.49	19.42%	410(1)	10(1)	6	200,000	

		株価	EPS	BPS	PER	PBR	ROE
4689	ヤフー	26,890	1,733.81	8,580.82	15.51	3.13	20.21%
4340	シンプレクス・ホールディングス	22,680	1,906.47	14,593.27	11.90	1.55	13.06%
9437	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	113,900	11,187.34	126,458.15	10.18	0.90	8.85%
4307	野村総合研究所	1,592	168.40	1,343.44	9.45	1.19	12.53%
9449	GMOインターネット	483	37.77	163.72	12.79	2.95	23.07%
9984	ソフトバンク	2,719	285.78	910.8	9.51	2.99	31.38%
3769	GMOペイメントゲートウェイ	1,323	56.02	288.49	23.62	4.59	19.42%
2317	システナ	71,000	3,062.90	47,254.10	23.18	1.50	6.48%
4326	インテージ	1,690	131.85	1,444.74	12.82	1.17	9.13%
3730	マクロミル	947	52.66	343.92	17.98	2.75	15.31%
	平均				14.69	2.27	16%
	情報・通信(東証1部)101社平均				16.00	1.1	6.88%
全銘柄は東証1部上場企業。							
情報・通信(東証1部)のPER、PBR、ROEは東京証券取引所(2012年11月13日末現在)より。							
合計10社							

## 参考文献

ヤフーJapan 会社概要

<http://research-lab.yahoo.co.jp/>

2012年12月10日

シンプレクス・ホールディングス企業ページ

<http://www.simplex-hd.co.jp/>

2012年12月10日

NTTdocomo

[http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/about/philosophy\\_vision/vision/index.html](http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/about/philosophy_vision/vision/index.html)

2012年12月11日閲覧

野村総合研究所

<http://www.nri.co.jp/index.html>

2012年12月11日閲覧

ソフトバンク株式会社

<http://www.softbank.co.jp/ja/>

2012年12月12日閲覧

GMOインターネット株式会社

<http://www.gmo.jp/>

2012年12月12日閲覧

GMO ペイメントゲートウェイ株式会社

<http://www.gmo-pg.com/>

2012年12月5日閲覧

GMO ペイメントゲートウェイ株式会社

<http://www.gmo-pg.com/>

2012年12月5日閲覧

株式会社システナ

<http://www.systema.co.jp/>

2012年12月11日閲覧

株式会社インテージ

<http://www.intage.co.jp/>

2012年12月12日閲覧日

株式会社マクロミル

<http://www.macromill.com/>

2012年12月12日閲覧日

## M&A まだ見ぬ可能性

コード	企業名	業種	再編内容	株価	発表日
2502	アサヒグループHD	食料品	カルピスを味の素から買収	1888	2012年5月
2802	味の素	食料品	カルピスをアサヒHDに売却	1226	2012年5月
3382	セブンアンドアイHD	小売業	イトーヨーカドーがセブンイレブン・デニーズを買収	2492	2005年1月
4188	三菱ケミカル	科学	三菱ヨーレンを買収	306	2010年3月
4502	武田薬品工業	医薬品	ナイコメッドを買収	3645	2008年5月
6501	日立製作所	電気機器	携帯電話部門を富士通に売却	418	2012年4月
6702	富士通	電気機器	携帯電話部門を日立製作所から買収	307	2012年4月
6502	東芝	電気機器	WHを買収	285	2006年1月
6758	ソニー	電気機器	有機EL事業で提供	970	2012年6月
6752	パナソニック	電気機器	有機EL事業で提供	515	2012年6月
7741	HOYA	精密機器	ペンタックスのデジタルカメラ部門をHOYAから買収	1650	2011年10月
7752	リコー	電気機器	ペンタックスのデジタルカメラ部門をリコーに売却	749	2011年10月
9984	ソフトバンク	情報通信	世界第3位の携帯電話会社のSprintNextel買収	2590	2012年10月
株価は2012年10月24日前場					

### 1. テーマ設定の理由

今回このテーマを設定した理由は、今の日本が元々世界 1 の技術力を持っていたのに他国にそれを上回られていったのを見て日本はどのような対策に出るのかと考えていたところ、Sony と Panasonic が次世代テレビの本命とされる有機EL (エレクトロ・ルミネッセンス) テレビの開発に向け提携交渉がついに承諾された。先行を許したサムスン電子工業株式会社韓国勢に対抗しようとしているニュースをみてこれからの日本を変えていくきっかけを作り出すのではないかと考え着目した。



実際 1995 年あたりから売り上げは下落してはいるがそれでもはるかに日本を上回っているのが現状だ。

しかし、この状況を打開するにはやはり手を合わせて新たな物を提供していくしかないと思うので、まだ見ぬ可能性を求めて挑戦していくしか日本の道は残されていないと思う。

電気企業にかかわらず他の会社にも言えることなので、これからの企業の対策に関心を置きたいと思う。

## 2. ポートフォリオの作成手順

まず私達は M&A によって合併や買収が行われた企業について北海道新聞や朝日新聞のデータベース、日経テレコンなど利用し新聞記事などを調べていく。

↓

この際、検索ワードとして「買収」「企業再編」などのワードを利用して企業を調べていく。

↓

検索結果として企業の買収などの記事等を多く見つけることができた。この中から電子機器の企業を中心に選んでいく。

↓

いつ会社のM&Aが行われたかなどをインターネットで利用して調べていく。

↓

しかし実際には話があっただけで何も行われていない企業を削除した上で電子機器企業に限らず他にも大手企業などでM&Aが行われていないかを調べ候補とした。

上の13社がリストアップした企業であり最近5年間でM&Aによる買収や合併が行われた企業である。その13社がどの会社を買収したか、買収されたか、合併したかをまず調べ、それがいつ起きたかなどを調べ5年分の株価を調べTOPIXとの比較を行いました。また企業のROEを近年3年分グラフで表し効率良い運営ができていくかを調べた。

## 3. 参考文献

日経テレコン

<http://t21.nikkei.co.jp/>

Yahoo!ファイナンス

<http://finance.yahoo.co.jp/>

日経新聞

現代用語の基礎知識

# イスラム圏に進出する日本企業について

## 1. テーマ設定理由

今回のテーマを設定する上でいくつかの手順を踏んだためそれを示した。

### ・初期テーマ

最初のテーマは「アジア圏に進出している日本企業」で、理由は、とある講義の中で「これからの日本はアジアに進出していくことになる」という言葉を聞いたことだった。

### ・テーマの変革

しかし、最初のテーマを進めていくうちに私たちの先輩も同じテーマでレポートを作成していたことが分かり、先輩たちと同じテーマを選んだ上でそれを発展させていくか、まったく違うテーマを設定し直すという二つの選択肢が出て来た。

### ・テーマの変革

その時に指導教員の玉山先生から「イスラム圏」について調べてみたらどうかという意見を頂き、イスラム圏にはアジアから中東までが含まれていることや現在、開発が進んでいる中国以外に目を向けられることから最終テーマに設定した。

## 2. ポートフォリオ作成過程

今回ポートフォリオを作成するに当たって、大きく分けて6つのSTEPを行った。それによって冒頭の全12社のポートフォリオの作成に至った。

次に、ポートフォリオの作成過程の説明を行った。

STEP1、日経テレコムなどを利用して絞り込みを行いました。「D8」と呼ばれるイスラム発展国とタイ、シンガポール、ベトナム、ミャンマーのあとに「企業」というキーワードを入れ、検索を行った。

STEP2、企業の過去10年間の株価推移とTOPIXの比較を行った。

STEP3、STEP2で絞られた企業の過去3年間のROEの分析を行った。

STEP4、STEP3で絞られた企業の中からイスラム圏内の国に出店を行っていなかった企業を削除した。

STEP5、STEP4で絞り込んだ13社に対してTOPIXとの比較及びROEの分析を行った。

STEP6、仮のポートフォリオをフィールド実践で運用会社の方に見ていただいた。その結果、アサヒビールと東京海上ホールディングスを新たにリストから削除した。

その代わりとして、マンダム、ダイハツ工業、ヤマハ発動機をリストアップした。

自動車とコンビニには重複があるので、ダイハツ工業 (7262)・ファミリーマート (8028)の2社をポートフォリオから削除した。

最終的にこの2社を引いた合計12銘柄を最終ポートフォリオとした。

### 3. 投資企業の詳細分析

今回の投資対象の全12企業の詳細分析をまとめた。

まとめた内容は企業概要・ROE・TOPIX との比較・平成21・22年度の地域別売上割合である。

### 4. 当ポートフォリオからみる企業の傾向

ここでは、私たちのポートフォリオからわかることをまとめた。

企業の内訳は電気機器1社・輸送用機器2社・小売業2社・卸売業者3社・化学2社・機械2社でした。また、業種に注目すると、小売業・卸売業といった販売系の業種と機械・電気機器・輸送機器といった機械系の業種の大きく2つに分かれていた。

この二つに共通することはイスラム圏に生産拠点を置かずに販売を中心に行っていることだった。

また、運用会社の方から「イスラム圏に進出している企業は手広くいろいろなことをやっている大企業が多い」という指摘を頂いた。

この指摘は大きな企業に投資すれば手広くやっているからイスラム圏に入っているという私たちのポートフォリオの弱点だった。

結果、私達はこの弱点を克服することができなかった。

### 5. 近年の日本企業のイスラム圏進出について

これを考えるにあたって二つの文献を参考にした。

1つ目は「巨大市場、イスラム圏の「食」狙え！日本メーカー、「ハラル」で事業拡大」で、2つ目はインドネシア食品産業進出可能性調査報告書「第1章 インドネシア食品市場への進出に向けて」である。

#### 結論

イスラム圏は近年の日本企業の海外進出に大きく関わっている地域で、今後も高い成長が見込めることから日本企業の目はイスラム圏に向いていくことや、イスラム教に関わっ

ていることを忘れてはいけないことがわかった。そういった宗教の問題に留意しつつ、イスラム圏進出を進めていくことがそこでの売り上げを伸ばしていくためには必要になるはずだ。

## 参考文献

ヤフーフाइナンス : <http://finance.yahoo.co.jp/>

**Sankeibiz** : 巨大市場、イスラム圏の「食」狙え！日本メーカー、「ハラル」で事業拡大

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/121002/bsc1210020502005-n1.htm>

食品産業海外事業活動支援センター

[http://www.shokusan-sien.jp/index.php?mo=topics&ac=TopicsDetail&topics\\_id=275](http://www.shokusan-sien.jp/index.php?mo=topics&ac=TopicsDetail&topics_id=275)

インドネシア食品産業進出可能性調査報告書

第1章 インドネシア食品市場への進出に向けて 著 中京大学教授 並河 良一

<http://www.shokusan-sien.jp/sys/upload/275pdf2.pdf>

イスラム圏地図 : <http://blogos.com/article/20701/>

日経テレコン 21 : <http://t21.nikkei.co.jp/g3/CMN0F11.do>

北海道新聞データベース : <http://t21.nikkei.co.jp/g3/p01/LCMN0F11.do/doshin/>

朝日新聞デジタル : <http://www.asahi.com/>

東洋経済オンライン : <http://www.toyokeyzai.net/>